

と
き
め
き
おおいた土木未来プラン
2015

いのち
生命を紡ぐ県土づくり

大分県

大分県土木建築部長期計画

と き め き
おおいた土木未来プラン 2015

平成 28 年 3 月

はじめに

東九州自動車道が開通し、九州を循環する交通ネットワークがようやく完成しました。昭和41年に「東九州自動車道建設促進協議会」を立ち上げてから半世紀、長年の悲願達成です。開通直後からその波及効果が現れており、人の流れでは、宮崎県からの宿泊客数が対前年度比で約10%増加、物の流れでは、大分港から台湾に向けて新たなコンテナ船や大分～清水港間にRORO船が新規就航するなど、今後も様々な分野で効果が期待されています。

このように我々の先輩方が、全国でも稀に見る土木建築行政の長期計画である「おおいた土木未来プラン2005」を策定し、県民が夢を持てる地域づくりのため、県内各地で社会資本の整備に取り組んできたその成果が、いま花開いています。

一方で、東日本大震災から5年経ちましたが、今も東北の被災地では、復興に向け市街地のかさ上げや防潮堤等の建設が進められています。大規模地震や集中豪雨など、ひとたび被害を受けければ生活が一転し、長い年月その再建に苦しむ人たちがいることも、社会資本の整備に携わるものとして、決して忘れてはなりません。

翻って、本県の現状に思いを巡らせると、九州の東の玄関口としての拠点づくりや広域交通ネットワークの早期形成、治水・土砂災害や南海トラフ地震・津波対策、社会資本の老朽化対策など、多くの新しい課題も現れています。これらに対処するため、先達により丹念に築き上げられた施策の上に、新たな施策を積み重ね、今後10年の道標となる「おおいた土木未来プラン2015」を策定しました。基本理念である「生命を紡ぐ県土づくり」は、社会資本が、人々の生活に溶け込み、長く根付きその風土となっていくことを理想としています。例えば、県都大分の「まちなみの骨格」は、約400年前の府内城下町時代のものであり、当時の「外堀」が、今でもコンバルホール前の「外堀通り」などとしてその名残を見せるなど、社会資本は、時を越えて引き継がれてゆくのです。

このプランの実現のため、引き続き、土木建築部職員一丸となって、安心な暮らしを守り、地域の活力と発展を支える県土づくりを、県民の皆さんと共に、世代を越えて進めてまいります。



平成28年3月 土木建築部長 進 秀人



おおいた土木未来プラン 2015

■序 章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨	2
2 計画の性格・役割	2
3 計画の期間	2

■第1章 時代の潮流

1 人口減少社会の到来	4
2 値値観の多様化とライフスタイルの変化	4
3 安心・安全で心豊かな暮らしの志向	5
4 グローバル化と産業活動の下支え～九州の東の玄関口～	5

■第2章 県土づくりの進め方

1 基本理念	8
2 県土づくりの3つの分野	9
3 分野別の施策の展開	10
4 取組に当たっての視点	11
5 土木未来プロジェクト	12

■第3章 県土づくりの3つの分野

第1節 安心な暮らしを守る強靭な県土づくり

1 治水対策の推進	14
2 土砂災害対策の推進	16
3 地震・津波、高潮対策の推進	18
4 交通安全対策の推進	20
5 社会資本の老朽化対策と適切な維持管理	22
6 危機管理体制の充実	24

第2節 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

1 快適な都市空間の形成	26
2 潤いのある水環境の創出	28
3 快適な住まいづくりの推進	30
4 「おんせん県おおいた」のツーリズム支援	32

第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

1 広域道路ネットワークの構築	34
2 地域道路ネットワークの充実	36
3 海上輸送拠点の強化	38

■第4章 取組に当たっての視点

1 県民参加型行政の推進	42
2 効率的・効果的な事業の推進	44
3 自然環境や周辺景観への配慮	46
4 人づくりの推進	48

■第5章 土木未来プロジェクト

1 豪雨災害対策	54
2 南海トラフ巨大地震対策	56
3 「九州の東の玄関口」の強化	58
4 大分都市圏交通円滑化対策	60
5 道路空間の再生（リボーン）	62
6 屋内スポーツ施設の建設	63
7 社会資本の集中的メンテナンス	64
8 建設産業の魅力発信	66

■第6章 計画の進行管理

1 進行管理	68
2 目標指標一覧表	68

■付 錄

用語解説	70
「土木未来宣言」～職員の共通の価値観と行動指針～	75
土木未来行動指針	76
大分県全図	